

第5回 総社市病院施設整備補助事業審査委員会審議議事録

日時：令和5年9月14日（木）17:30～18:30

場所：総社市保健センター保健指導室

出席：委員6名（うち1名 WEB）・事務局

1 あいさつ

副市長あいさつ

委員長あいさつ

2 協議事項

・実績報告書の内容審査について

事務局：本日は、事業者から提出された実績報告書の内容について、審議していただく。実績報告書として、補助の要件をしっかりと踏まえているか、要綱と適合するものになっているか、ご議論いただき、ご意見をいただきたい。

事務局説明

○実績報告書の説明

事務局：事業者から提出された事業成績書、収支決算書、所要額精算書及び平面図等補助事業の実績が確認できる書類について説明

委員長：ただいまの説明に何かご意見等あるか。

委員：災害対策マニュアルも確認したが、非常時使用するコンセントの位置も精査され、これならば災害時の対応が可能かと思った。

委員：説明の内容で特に問題はないと思う。今回の補助内容とは関係ないが、BCPという観点でのマニュアルで、インターネットウイルスなどシステムのセキュリティ対策について、災害だけではなく、システム等が停止した時に病院がどう対応するかという点が書かれているとより良くなると感じた。

委員長：先ほど説明のあった実績報告書の内容については、異議がないということでよいか。

委員：了承

事務局説明

○市が求める6つの医療機能 実施状況（令和5年8月）の説明

《2次救急機能》

事務局：8月、1ヶ月の実績として、救急利用件数は58件で、その内、救急車による救急搬送件数が34件、患者自身が自分で来院した件数が24件であったと

のこと。受診された主な疾患としては、熱中症12件、新型コロナウイルスに感染に関する症状8件、腹痛5件、交通事故、めまい、切り傷などが各4件であったとのこと。また入院となった件数が8件、市外の病院へ転院搬送されたものが1件あったとのこと。

《回復期リハビリテーション機能》

事務局：8月、1ヶ月の実績として、新規に入院で受け入れた患者数は6名で、主な病名は心不全、脳血管疾患、事故外傷、骨折などであったとのこと。6名のうち、転院により入院した者は2名であったとのこと。また、リハビリ室については、1日約100名程度の利用があり、心肺運動負荷試験装置を活用した測定の件数は5件であったとのこと。

《地域連携室》

事務局：8月、1ヶ月の実績として、相談件数が102件で、その内、対面の相談が42件、電話の相談が60件であったとのこと。入退院支援などの相談業務を行い、相談先としては、医療機関、ケアマネージャーなどであったとのこと。調整の結果、倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院などからの転院や、退院後の支援として、かかりつけ医となる市内クリニックへ繋いだケースがあったとのこと。

《緩和ケア機能》

事務局：8月、1ヶ月の実績として、外来診療の方が10件、入院診療の方が2件であり、その主な疾患は、がんや慢性腎不全、心筋梗塞などであったとのこと。岡山県の緩和ケア研修会を受講された医師が1名在籍しており、さらに、もう1名の医師が研修会を受講されているとのこと。

《災害拠点機能》

事務局：災害時の体制や非常用コンセントの位置等を盛り込んだ災害対策マニュアルを作成されている。また、火災や地震等を想定した訓練の実施が予定されている。現地視察の際に指摘があったデイケア棟の非常電源については、発電機を購入して対応するとのこと。また、災害時に避難所等として使用することについて、詳細を市と病院で協議し、災害により怪我等された方に対応する救護所の設置、医療ケアが必要な子どもや大人等に対する福祉避難所の設置をすることとしている。

《健診センター機能》

事務局：8月、1ヶ月の実績として、国保特定健診が2名、後期高齢者健診が2名。

胃がん検診11名、大腸がん検診11名、肺がん検診62名、乳がん検診6名、子宮がん検診1名、腹部超音波検査12名、骨粗鬆症検診1名であったとのこと。また、がん検診の人数と一部重複するが、人間ドックを受けられた方が15名であったとのこと。企業検診107名、施設入所者の方が受ける検診が21名であったとのこと。人間ドックについては、心臓ドック、脳ドック、レディースドック、プレミアムドックという形で実施され、今回の人間ドックの中にはレディースドックも1名含まれているとのこと。協会けんぽ等の企業健診を実施する医療機関としての登録を目指し、今後積極的にPRをして、受診者を増やしていきたいとのこと。

《その他》

事務局：主な医療機器の利用状況について、一般診療で使用した数も含め、X線装置については376名、CTについては105名、MRIは21名、超音波画像診断装置は2台あり、1台が78名、もう1台が81名の利用であったとのこと。

委員長：市が求める6つの医療機能（令和5年8月）の実施状況について何かご意見等あるか。

委員：2次救急機能について、長野病院の令和3年の救急搬送受け入れは35件だったが、8月の1ヶ月だけで1年分ぐらいの搬送を受けているので、非常に素晴らしいことであるし、これからも頑張っていただきたい。

委員：現地視察のときにも話をしていた、災害対策マニュアルが整備され、災害対応訓練の計画や非常時の電源の配置も分かる内容になっており安心した。有事の際、福祉避難所となるデイケア棟には、ポータブル発電機を準備されるとのことと理解した。実際、停電など電気系統が止まったときに、システムも一旦ダウンする可能性もあるが、システムありきではなく、システムがダウンしたときの対応を想定しておくことが大事だと思う。また、この電気系統の責任者を明記されておくとよいと思う。マニュアルもより充実させていき、市民の方が救護者や福祉避難所として安心して使えるようになればいいと思う。

委員：他の委員から、救急の受け入れ件数が非常に増えているという発言があったが、この実施状況を理解するのに、従前の状況が分かるものがあれば、比較ができて良いと思った。

委員：長野病院で、がんなどの大きな手術ができるのか。

事務局：現時点では、お尋ねのがん等の大きな手術の対応は難しいと聞いている。長野病院で見立てをし、市外の大病院で適切な手術をした後、回復期にまた市内に戻ってきていただくことを想定している。

委員：災害対策のために造成時に嵩上げをしたり、様々なマニュアルが整備されていくのは、市民にとって安心材料となる。今後は、市、消防、警察や地元医師会等と連携して施設運営をしていってほしい。

委員長：事務局からも様々な機関との連携を後押ししていただきたい。

委員：救急の受け入れ件数が市内で増えることは、総社市民にとっては安心が増えることに繋がると思う。私が事前に確認したところ、令和4年に、市内で約1,300件救急の受け入れがあったが、これでおそらく400件弱増えることになるので、そうなると総社市民で、岡山市や倉敷市の病院に行っていた方たちが近くの病院に早く行けることになるということなので、良いことだと思った。

がんは早期発見、早期治療が大切なので、MRIとかCTなど高度な医療機器が導入された近くの医療機関ですぐに健診が受けられるということは、安心感に繋がると思う。

委員長：事務局からの報告を聞き、委員の意見も伺ったが、今回の長野病院の補助事業については、要綱に基づいた適正な内容により手続きがなされたと判断し、本審査委員会としては事業者から提出された実績報告書の内容を了とすることとしたいが、いかがか。

委員：了承

委員長：では、委員から了解を得られたので、今回の実績報告に異議がないという結論としたい。

3 その他

○今後のスケジュールについて事務局から説明